

INTERVIEW



城西国際大学大学院 経営情報学研究科 孫根 志華 研究科長 教授

PROFILE

そねしか 博士(経済学)。1962年中国上海生まれ。1984年復旦大学卒業後、旅行社就職。1992年明治大学大学院修士課程修了(経済学修士)。1996年同上博士課程修了(経済学博士)。城西国際大学の講師、准教授、教授を経て、現職。入試部副部长、留学生センター所長、中国文化研究センター所長等を歴任。

外国で学ぶ若者たち



「元横綱・日馬富士(ダワーニヤム・ビャンパドルジ)さん(以下、日馬富士さん)、大学院修了へ」という明るいニュースは、スポーツファンのみならず、多くの人の注目を集め、日本で学ぶ外国人留学生にも勇気を与えた。指導をされたのは、千葉県日中友好協会理事も務めておられる、城西国際大学大学院の孫根志華教授。これまでたくさんの方々の外国人留学生と接してこられた孫根先生に、日馬富士さんのこと、そして外国人留学生を取り巻く環境についてうかがった。

変わりゆく留学生事情

■まず、先生ご自身が日本に留学された経緯を教えてください。

中国の大学で日本文学を専攻後、社会人として4年間、通訳をしたり日本人を案内したりして、中国をいろいろと見てきました。すると豊かな中国とかなり貧しい中国とがあり、その大きな中国を自分の中で消化しきれませんでした。これはもう一回勉強し直そうと。そして日本語もできるから、日本の大学で経済を学ぼうと思っただけです。

れの10年の差でも違って、80年代生まれには過去の貧しい時代の経験があります。

■最近の中国人留学生はいかがですか？

あれから30年経ち、一気に中国の学生が変わりました。中国の高度成長の結果です。中国語で「80後90後」(ハリンホウ、キューリホンホウ)、つまり80年代生まれと90年代生まれ

彼らはコロナの影響を受けていますか？

精神面で、コミュニケーション不足や、帰国・就職ができない、つまり先が展望できないといったストレスがあると思います。大学院生にはストレス解消のためにも宿題を出して、毎週発表してもらいます。そうすると、家に帰ってやることのできる。そうであれば徹夜でゲームをやって、昼間は寝ているようですね。

日本語で論文を書くという

■母国語以外の言語で論文を書くには大変な努力が必要でしょうか。

外国人留学生は3つの苦しみ乗り越えなくてはなりません。



卒業式で、優秀論文賞を受賞された日馬富士さんと(2021年3月、孫根先生ご提供)

1つ目は「日本語力」。(日本語能力検定の)N1やN2を持っていても会話と文章とは言葉が違います。

2つ目は「文章力」。修士課程では通常2年間です。3万字の論文を書きます。彼らは母国で5千字の論文を書くことも滅多にないでしょう。文献を理解し、自分の考えとして論文にまとめるには相当訓練が必要です。

3つ目は「専門知識」。専門用語の訳だけで時間がかりまします。また今の院生は論文に流行りを求め、eコマースなどの新しい現象を書きたがりまします。学問は過去の経験と知見を活かして分析するものですが、新しい現象に過去の蓄積はないので、新聞やネット情報で集めた情報でも専門知識のベイスがないとやはりいい論文は書けません。

■日馬富士さんの修士論文は7万字とか。

日馬富士さんは16歳で日本に来て、相撲界に入りました。モンゴルの力士は日本語が上手で、日本文化に馴染んでいるのでしよう。彼は社会人入試で本学に入りました。社会経験のある人が同等の能力を有すると認められて入った場合、それまでの社会経験をプロジェクト研究として論文にまとめます。

彼は現役引退後に、モンゴルで「新日馬富士学園」を設立し、日本の道徳や武道精神の理念を活かしてきました。その成果について、第一期卒業生が出たタイミンで、在学生、父母、教職員など合わせて2千名以上にアンケート調査を実施しました。そこから問題点を明らかにして、まとめたわけです。ですから7万字の論文の内容は、全く彼のオリジナルです。

もう一つ、モンゴルの教育制度や日本との交流をまとめられました。これを本にしてはと勧めましたが、本人

は決っています。有名なになりたくない。

■元横綱で、有名でいらっしゃるようですが？

今の自分にはやりたこと(教育)がある、あまり有名になると学校の教育に望ましくないので、このことです。

■日馬富士さんにはどんなアドバイスをされたのですか？

論文を書くにあたって「日馬富士さん」に「か書けないものを」と、彼と話して方向性を決めました。

ただ、新日馬富士学園の第一期生がちょうど卒業し、今後日本にも学生が留学に来る。そんなことも、成果としてまとめられるきっかけになったのだと思います。教育の成果を世間に公表すること、大事な社会への還元ですからね。

バーチャルの世界で

■今学生はどのような交流をしていますか？

教員が知らないところで、学生同士はつながっています。昨年4月、コロナでいきなり休校になった新入生に、友達ができないままどうしているのか聞くと、「SNSで知らないうちに友達になっ



地元の人と交流する中国人留学生たち。【上】地引網 【下】いちご狩り(いずれも2019年、千葉県日中友好協会提供)

■授業もオンライン化が進みましたね。

我々教員も鍛えられ、コツをつかみまします。また私は授業後アンケートをとり、次の授業で説明し直してみることがありました。

知中派になれ

■本紙読者に伝えたいことはありますか？

日本のメディアの中国に関する情報は、ネガティブなものが多いです。客観的な事実に基づいて判断してから載せればよいのです。いきなりすべて悪い方向に書かれます。すると報道だけで、中国に行ってみてきたわけではないみなさんも「中国は悪い」と結論を出す。それはよくないと思います。

■日馬富士さんもコロナで苦労されたことはあったのですか？

彼は大変な時期がありました。モンゴルに

体的に、そして等身大の中国を見て。ある授業で「コロナはどこから来たか？」と聞くと、「中国から来た」と。その根拠は「トランプ大統領が言っているから」。(トランプ元大統領が「チャイナウイルス」と言ったからですね。ウイルスの本質を理解しないままそう考えるようでは、間違った判断をする心配があります。「コロナ禍」も日本のメディアに作られた言葉だと思えます。日本以外ではそんな言葉は使わないはず。そもそもコロナは一つのウイルス。自然界で生まれたものです。では自然界が悪いのか？自然界が悪いとは、人間は自然界か！と。人間が生まれる前、遙か昔に微生物は存在しているのです。抵抗力がないからやられただけなのに、錯覚しているのだと思います。

■今の若者に伝えたいことは？

人間はいずれコロナを克服するでしょう。そのとき世の中がどうなるかという、「新常态」(ニューノーマル)。社会的ディスタンス、キャッシュレス、デジタル空間など、我々の生活環境も変わります。コロナが終息しても元に戻らないのです。

ということは、すべての人間は同じスタートラインに立つわけですから、どう次の時代を生きるか、先見性を持ち、感性を磨いて、コロナが終息したら先に行けるようにしておく。そうすれば、勝てる人間になれるでしょう。

■最後に、今後の抱負をお聞かせください。

私が博士論文を指導した、中国国際航空日本支社長の高力さんと、観光で「モノからコトへ」が定着するよう、一冊の本にまとめました。従来よりもう一歩踏み込んで、少し長期、社会に入っていくに地元文化を体験できるような「国際観光コミュニティ」という概念を提起したので、2020年に大々的にやる発想があったので、コロナが終息したら日本に浸透するようになりたいです。

BOOK

国際観光コミュニティの形成 訪日中国人観光客を中心として 高力/孫根志華 著、学文社 相互理解に向けた国際観光コミュニティ論。

